

年次報告書

シャンティ国際ボランティア会

25年を超えた、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプでの活動。
困難な状況下でも、子どもたちに学びの灯を。

本力を、
生きる力に。



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



「織りの達人」であり、「ジュズ玉の刺繍」が個性的なカレン族の手仕事。カレン族の衣装は比較的シンプルな装いです。ジュズ玉をブラウスに縫い付けます。カレン族は男女、未婚・既婚問わず、貫頭衣で、綿を紡ぎ、糸を天然材料で染め、織機でおります。カレン族の衣装は、色使いもシンプルなシャツなので、普段から綿のパンツやスカートと合わせて着られています。

25年を超えた、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの活動。 困難な状況下でも、子どもたちに学びの灯を。

分断と対立が世界を覆う今、私たちは「共に生き、共に学ぶ」ことができる

平和な社会を目指すことの意味を問い直しています。

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの活動は25年を超え、

支援の長期化という厳しい現実と直面しながらも、

歩みを止めないのはすべての子どもたちの未来を

守り抜くと誓ったからです。

活動の中で目にする子どもたちの弾けるような笑顔は、

困難な状況下でも文化や学びが

心に明かりを灯し続けることを教えてくれます。

これまでの長い歩みの中で、皆さまと共に積み上げてきた

支援の形が、少しずつ子どもたちの希望として

息づいていることを再確認した年となりました。

ごあいさつ

日ごろよりシャンティの活動を温かく見守り、国内外の現場へ多大なるご支援を賜っておりますこと、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

現在、世界各地で紛争や対立が絶えず、私たちの活動もその影響を強く受けていますが、閉ざされた環境の中にも希望は生まれています。タイ国境付近にあるミャンマー(ビルマ)難民キャンプで開催された「難民子ども文化祭」では、14民族の子どもたちがそれぞれの伝統を誇らし披露し、その姿は過酷な環境にあっても文化・伝統や学びが平和の光となり、人々の尊厳を支える力になることを改めて示してくれました。

1981年の設立以来、「共に生き、共に学ぶ」社会の実現を目指してきたシャンティは、2026年12月に45周年の節目を迎えます。時代と共に課題は変化しますが、「あらゆる違いを越えて個人の尊厳を守る」という決意は揺るぎません。

1冊の本が、生きる力になると信じて。一人ひとりの「シャンティ(平和)」が守られる未来へ向けて邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

会長 若林恭英



取り組み

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの活動25年に際し、広報誌『SHANTI』での特集や、「緊迫するタイ・ミャンマー国境のいま」をテーマにしたイベントを開催しました。これまでの活動を振り返り、図書館活動や「難民子ども文化祭」開催を通じた成果と、複雑な現状の課題をお伝えしました。



イベントの映像はこちらからご覧いただけます

2025年のトピックス

7年ぶりに「難民子ども文化祭」を開催

2025年11月6日、タイ国境付近にあるミャンマー(ビルマ)難民キャンプにて「難民子ども文化祭(Refugee Children's Cultural Festival)」を開催しました。本イベントは、しばらく開催見送りが続いていましたが、2018年以來、実に7年ぶりの待望の再開となりました。

「難民子ども文化祭」は、シャンティが難民キャンプで暮らす子どもたちのために、それぞれの民族の伝統文化の保護と、共に暮らすさまざまな民族同士の文化理解を目的に、2009年から10年間、毎年開催してきた大切な取り組みです。

動画では、各民族の子どもたちが民族衣装をまとい、練習を重ねた伝統舞踊や歌、演劇などを力いっぱい披露する姿を捉えています。難民キャンプで育つ子どもたちが、自身のルーツに誇りを持ち、他者を尊重しながら未来を切り開く力を育む様子を、ぜひご覧ください。



「難民子ども文化祭」の映像はこちらからご覧いただけます



【訃報】弊会役員 八木澤克昌氏

弊会役員の内八木澤克昌氏は、2025年1月7日に享年66歳で逝去いたしました。故人に賜りました生前のご厚意に謹んで御礼申し上げます。2025年1月には「お別れ会」を、3月には「慰ぶ会」を開催しました。



「慰ぶ会」の映像はこちらからご覧いただけます



悲しみを強さに変え、未来へつなぐ

2025年も多大なるご支援をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。2025年は、シャンティにとって、そして私個人にとっても、計り知れない喪失から始まった1年でした。シャンティを築き上げ、そのミッションを現場で体現し続けてきた役員八木澤克昌氏の逝去です。長年活動を支えた大きな存在を失ったことに、当初は組織としてこの先の不安を拭いきれませんでした。しかし、お別れ会などを通じて彼の軌跡を振り返る機会を得たことで、国内外の全役職員が、この45年間で積み上げてきたものの価値を再確認することができました。

「いつまでも悲しみや不安に暮れてはいられない」——。その強い決意のもと、私たちは前を向き、2025年から新たに6年間の中期事業計画実施という、重要な歩みを進めてきました。現場で働く職員の中には、八木澤氏を通じて受け継がれてきたシャンティの精神が今も脈々と流れています。私たちは改めて、困難な状況下にいる子どもたち一人ひとりに希望を届け続けることを誓い直しました。

継続の重みを感じながら

国内外の活動において、2025年は「継続」という言葉の意味を深く噛みしめる年となりました。タイ国境のミャンマー（ビルマ）難民キャンプでの支援が25年を迎えましたが、支援が長期化している事実は、社会課題が解決されていないことを意味し、決して祝えることではありません。しかし、難民キャンプで生まれた子どもたちが未来を切り拓くためには、大人が道を切り拓き、寄り添い続ける必要があります。「関わった以上、関わり続ける」という粘り強い伴走支援こそが、シャンティのミッションの本質であることを再認識しました。

国際情勢が複雑化し、分断が進む中、比較的安定していた地域でも一瞬にして対立が生まれる現実も目の当たりにしました。タイ・カンボジア間での緊張が高まった際、私たちはシャンティの多国籍なネットワークを活かし、情報が制限される中でも冷静かつ客観的に状況を捉え、行動に移すことの重要性を痛感しました。

日本国内では、2024年に発生した能登半島地震の復興支援を継続しています。輪島市の図書館と連携し、移動図書館車を寄贈するなど、本を通じて人々が日常を取り戻すための支援を行ってきましたが、依然として復興には時間を要する状況が続いています。また、海外での教育支援の知見を活かした日本における在留外国人への包括的支援も、専門家と連携しながら着実に軸を据えて取り組んできました。

運営の現地化と「余白」を持つことの重要性

2025年からの中期事業計画では、海外職員のリーダーシップを軸とした運営の現地化をさらに加速させます。策定プロセスにおいても日本主導の運営から脱却し、全事務所のリーダー層がオンラインで集い、横断的に丁寧な議論を重ねました。

今回の中期事業計画で意識したのは、あえて「余白」を残すことです。社会課題は、ロジカルなゴール設定だけでは解決できない矛盾や揺らぎを含んでいます。目標を固めすぎず、

現場で生まれる新しい発想や変化を受け止めるための器を大きく持つことで、シャンティという組織がさらに成長していくことを期待しています。

また、質の高い事業を必要な人に届ける上で、組織の柔軟性と機動力を支える基盤強化は必要不可欠です。勤怠管理や人事・経理システムのDX化を推進し、運営の効率化とコンプライアンスの強化も継続しています。

私たちの歩みは、決して私たちだけの力で成し遂げられるものではなく、志を共にして下さる皆さまの温かいご支援のおかげです。この先いかなる困難や分断が世界を覆おうとも、私たちは「共に生き、共に学ぶ」社会の実現に向け、一歩ずつ踏み出していきます。

分断が進む世界において シャンティの原点と継続の重みを見つめ直す。



事務局長

山本 英里



八木澤氏お別れ会



難民子ども文化祭でのレクリエーション



役職員合同研修会

2025年からの中期事業計画（2025年～2030年）

1981年の設立以来、団体が培ってきた幅広いネットワークを拡大・深化し、教育・文化活動を推進することで、複雑化・多様化する人道危機や社会課題への取り組みを強化します。

1. 危機下にある人々、取り残された人々の生きる力を育む教育・文化支援を拡充します

- ・ 緊急人道支援および危機下での教育・文化・図書館事業の強化
- ・ 対象地域の文化を尊重し、教育・文化・図書館事業を通じた開発事業を推進
- ・ 共生社会を実現するための国境を越えた事業を推進
- ・ 日本国内における緊急人道支援及び防災・減災への対応を推進
- ・ 人道・開発・平和の連携を念頭に、質の高い事業実施のための基盤整備、ナレッジ・マネジメントを推進すると共に、成果の発信を行う

2. 取り残された人々の権利の推進ならびに平和・共生社会実現のためのネットワーク連携・政策提言を強化します

- ・ 連携ネットワークに積極的に参画し、社会課題の解決に貢献
- ・ 活動地における連携ネットワークへの参画を強化
- ・ 政策提言を行うための基盤整備

3. 国内外における団体認知の拡大により、必要な資金を調達します

- ・ 国内外における団体の認知拡大
- ・ イベント・ワークショップの実施および開発教育教材の作成を通じて、市民が参加しやすい環境づくり
- ・ 既存支援者との関係構築
- ・ 新たな収益事業の構築を含む、財源の多様化と拡充

4. 設立理念を大切にし、必要とされる事業が安定して継続できることを目指した組織構造を再構築します

- ・ 事務所機能と役割の再構築
- ・ 内部統制の強化
- ・ 組織の理念継承のための基盤整備
- ・ 組織の国際化を目的とした基盤整備と管理業務の効率化
- ・ 市民社会活動を実践し貢献できる、高い専門性を持った人材を育成

シャンティは40年以上、アジアの8つの地域で活動を行ってきました。国や地域の社会状況により必要な支援は異なります。専門性を持った職員が活動地に滞在し、継続的な支援を行っています。現地の人々と共に、学びの文化を育てています。

これまでの支援活動実績 (2025年末まで)

実績1 学ぶための本や活動

	2025年	通算
絵本・紙芝居出版	11タイトル	698タイトル
届けた絵本	18,109冊	437,460冊
図書館利用者	459,979人	1,766万人



実績3 安心して学べる場所

	2025年	通算
学校建設	10校	475校
図書館・図書室設置	25館・室	1,096館・室



実績2 学びを届ける人

	2025年	通算
研修参加者	123回 / 2,836人	1,567回 / 65,300人



実績4 緊急人道支援

	2025年	通算
緊急救援出動回数	9回 ・海外7回 ・国内2回	126回 ・海外89回 ・国内37回

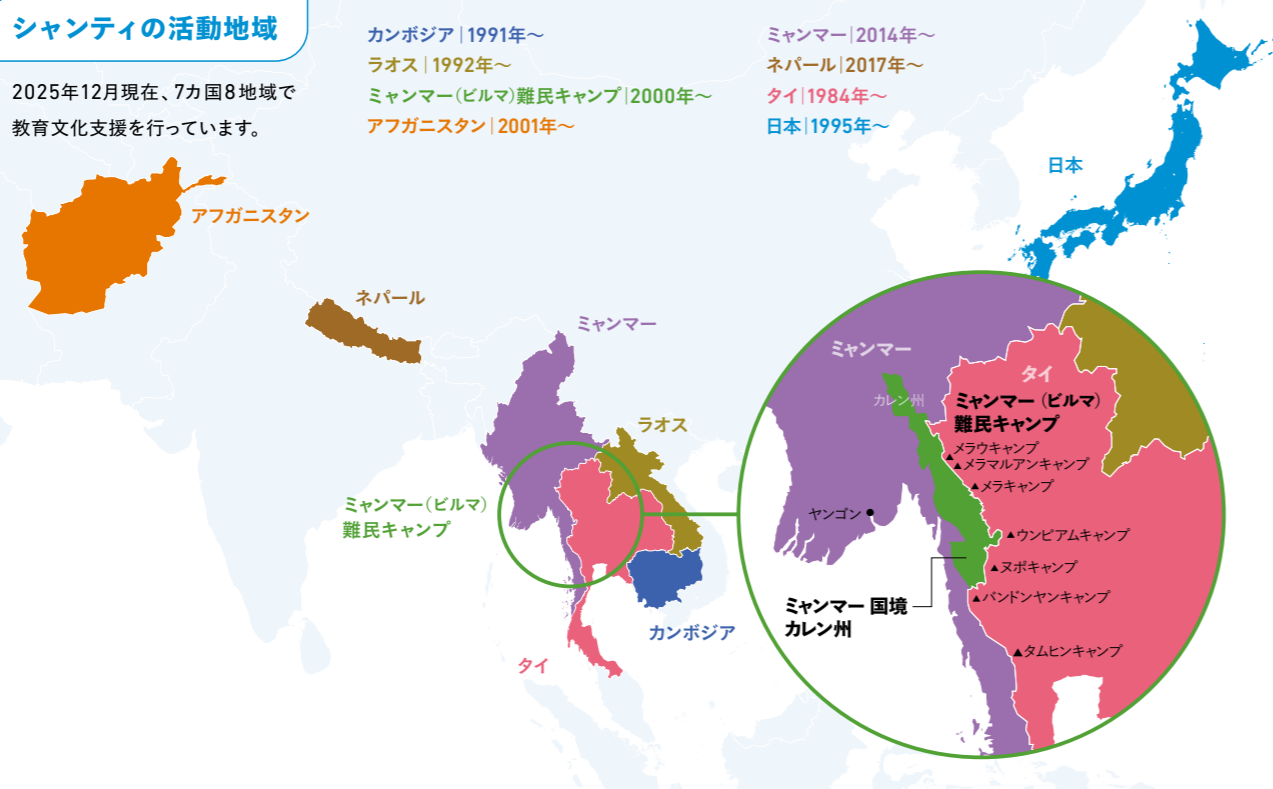


シャンティの活動地域

2025年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援を行っています。

カンボジア | 1991年～
ラオス | 1992年～
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～
アフガニスタン | 2001年～

ミャンマー | 2014年～
ネパール | 2017年～
タイ | 1984年～
日本 | 1995年～



Thailand

タイ

スラム地区、移民・少数民族居住地域で教育支援

タイにとって2025年は、自然災害や政治情勢の不安定化、カンボジアとの国境紛争など、社会全体が大きな課題に直面した1年となりました。先行きが見通しにくい状況が続く中、奨学金事業による教育機会の改善と、移動図書館による読書推進活動を継続して実施することができました。今後も、子どもや青少年の成長と教育振興を支えるため、引き続き各事業に取り組んでまいります。



実績
図書館活動参加者:
7,207人
奨学金支給者:
298人
国境移民支援
研修会参加者:
101人
学校建設:
2校

*シーカー・アジア財団(SAF)はシャンティの元タイ事務所、シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。



シーカー・アジア財団を通じた支援



シーカー・アジア財団を通じた支援



サトレ財団を通じた支援



シーカー・アジア財団を通じた支援*

- 1. 教育の機会改善事業**
 - ・中高生合計278人(バンコク23人、パヤオ県97人、ターク県158人)と大学生20人の合計298人に奨学金を授与しました。奨学生の選定のため、2月に対象3地域にて職員による家庭訪問を実施しました。前期奨学金授与式を6月に、後期奨学金授与式を11月にバンコク、パヤオ県、ターク県の3カ所で開催しました。
 - ・奨学生の交流ワークキャンプを10月にパヤオ県で開催し、同県の奨学生100人が参加しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・バンコクのスラム地区、サムットサーコーン県の26カ所とナコーンパトナム県の移民学校1校にて計96回の活動を行い、6,749人の子どもと458人の教員および学校関係者が参加しました。
- ・バンコクのスラム地区とサムットサーコーン県マハーチャイ地区にて、学校教員を対象とした研修会を各1回実施し、合計58人(バンコク26人、マハーチャイ地区32人)が参加しました。
- ・活動先の1つであるマハーチャイ地区のワットシリモンコン学校に設置した学校図書館を継続支援しました。

事務局長メッセージ

シーカー・アジア財団
事務局長
ナリラット・
ターンジャンルンバムルンスック



2025年は激動の1年となりました。1月にアドバイザーの八木澤克昌氏が急逝し、私たちは深い悲しみに襲われました。3月下旬にはミャンマー中部を震源とする地震が発生し、バンコク中心部でも揺れが観測され、建設中の建物が倒壊して100名を超える尊い命が失われました。政治的混乱は続いており、タイ国内の政治対立はタイ・カンボジア間の軍事緊張を高める事態にまで発展し、ついには武力衝突が勃発しました。両国間で民間人を含む死傷者が多数出しており、国境周辺で暮らす住民たちは避難生活を余儀なくされています。11月下旬には南部9県で大洪水が発生し、南部経済の中心地であるソクラー県は特に甚大な被害を受けました。依然として社会課題は山積していますが、私たちは子どもたちへの支援を継続し、問題解決に向けた小さな一歩として引き続き各事業を実施してまいります。

サトレ財団を通じた支援

ミャンマーからの移民が特に多いターク県において、シャンティはサトレ財団と提携し、下記に取り組みました。

ターク県の移民学校に通う子どもたちの教育改善事業

- ・ターンヤン郡の移民学校にて学校校舎2棟、寄宿舎2棟、トイレ2棟を建設/修繕し、519名の児童・生徒が新校舎の利用、85名の児童・生徒、教員が寄宿舎の利用を開始しました。
- ・建設した学校校舎に図書室を整備し、家具や図書(計2,869冊)、文具や備品を供与しました。930名の児童・生徒と、62名の教員が学校図書室の利用を開始しました。
- ・学校図書館運営研修を開催し、計20名の教員が参加しました。学校図書館活動研修を開催し、計34名の教員と生徒が参加しました。
- ・学校運営マニュアル作成のためのワークショップを2回開催し、計32名の教員が参加しました。
- ・2024年度に建設した対象校で施設管理維持研修を開催し、計15名の教員と学校運営委員会のメンバーが参加しました。

Cambodia

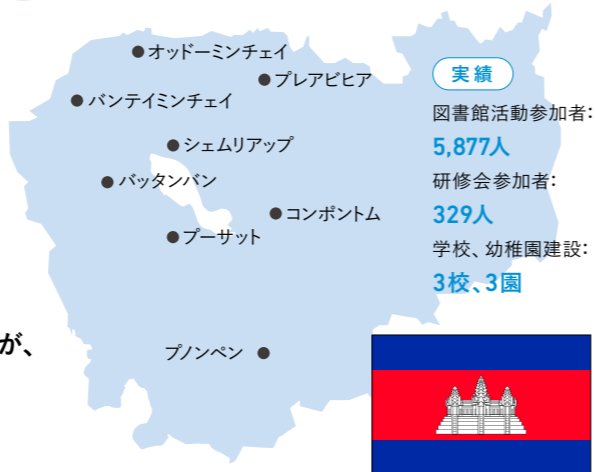
カンボジア

学習環境改善に加え、緊急下の教育支援も実施

カンボジアでは7月と12月にタイ国境での軍事衝突が発生し、数十万人がより安全な内陸側へと避難しました。

最大1,300校が休校し、避難したほとんどの子どもたちは一時的に教育へのアクセスを奪われました。

教育省の基準を満たす質の高いモデル校が、引き続き推進されていますが、農村部や僻地の学校は取り残されやすく、読書へのアクセスを含む学習環境改善は喫緊の課題です。



事業

1. カンボジア北西部の公立幼稚園における幼児教育の質の改善

- ・ブレアピビア州の公立幼稚園3園で、園舎建設・家具修繕・トイレと手足洗い場の設置・園庭整備を行いました。
- ・ブレアピビア州の教育関係者に対して、幼稚園スタディツアー及び「遊びを通じた学び」実践・啓発研修を2回実施し、計87人が参加しました。
- ・作成した幼児教育啓発のリーフレットを活用し、保護者に対して幼児教育の重要性を伝えたいほか、教師と保護者がより幼稚園の活動を共有できるよう、SNSや掲示板を活用しました。

2. 学校建設

- ・プーサット州およびバッタバン州の小学校3校に、3教室の新校舎を建設しました。
- ・学校敷地利用計画図や校舎の維持管理にかかる研修会、植樹を行いました。

3. 読書推進活動

- ・国立図書館・国内の読書支援団体と協働して、イベント開催などの読書推進活動を実施しました。

- ・環境省と協働し、環境問題に関する、絵本を用いたトレーナー研修を実施しました。
- ・これまでの事業で支援したコミュニティ学習センター（CLC）や小学校、カンボジア・タイ国境での軍事衝突から逃れた人々がいる避難所にて移動図書館活動を行い、計5,877人が参加しました。

4. 緊急支援活動

- ・国境での軍事衝突で発生した支援ニーズを確認するため、避難所で調査活動を実施しました。
- ・避難所にて、食料、衛生用品などの緊急支援パッケージや、文具などの教育支援物資を配布しました。



カンボジア事務所職員

所長メッセージ

カンボジア事務所
所長
菊池 礼乃



カンボジアでは、経済成長・貧困削減が進む一方で、2025年はタイ国境での2度にわたる軍事衝突という大きな課題にも直面した一年でした。教育分野では引き続き質の向上が重視されていますが、農村部の学習環境改善は依然として重要な取り組み分野となっています。

カンボジア事務所では、現地職員のリーダー層の世代交代があり、新たな体制での運営を開始しました。軍事衝突の影響により、事業や事務所運営に一時的な制約が生じる場面もありましたが、職員間で協議を重ね、安全管理を最優先としながら、可能な活動を継続してきました。幼児教育、学校建設、読書推進の各活動を実施するとともに、避難民への緊急人道支援にも取り組みました。今後も、現地の状況を踏まえ、変化するニーズに応えながら、困難な状況にある子どもたちの学びを支えていきます。

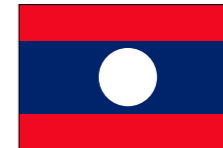
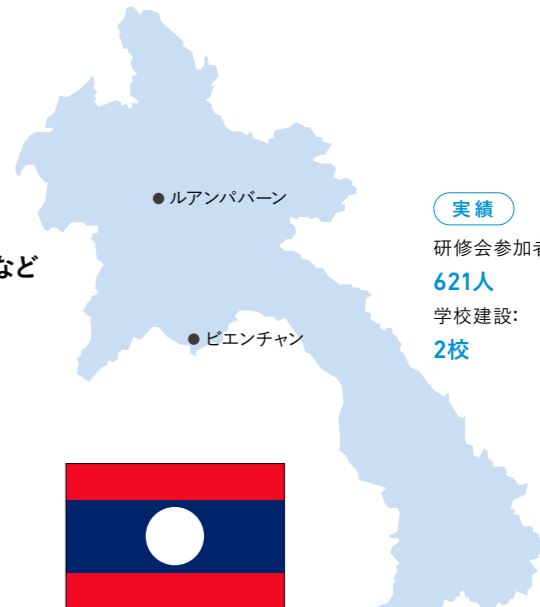
Laos

ラオス

厳しい教育環境の中で続く支援の取り組み

遠隔地における教員不足への対応として軍人が教員として派遣されるなど

ラオスの教育環境は依然として厳しい状況が続いています。そのような状況の中ラオス事務所では、2024年に開始した少数民族地域での指導・学習環境改善事業を本格化させ、村落教育開発委員会や教員向けの研修を実施するなどして、引き続き子どもたちの教育状況の改善に取り組んでいます。



事業

1. 学校建設

- ・2024年に建設した小学校2校の竣工後8カ月と1年後検査を行いました。また施設維持管理および衛生研修を完了しました。
- ・2024年に建設を開始した小学校2校の施工50%、100%検査、竣工後8カ月検査を実施しました。また施設維持管理および衛生研修を完了しました。
- ・新規事業形成のための調査を実施し、校舎建設候補7校を選定しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・22の対象校に対して図書室・読書コーナーの設置・管理・運営に関する研修を2月・3月に実施し、合計383名の教員や村落教育開発委員会のメンバーが参加しました。
- ・現地の文化に配慮した絵本を合計2,200冊(2タイトル)、紙芝居を合計250冊(1タイトル)再版しました。
- ・対象校における読書推進活動の充実に向けて、教員への改善に向けた助言を重点的に実施しました。

3. 初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業

- ・5月から7月にかけて22の村落教育開発委員会を対象に研修を実施し、177名の委員会メンバーが参加しました。研修では主に村落教育開発計画を自ら作成できる能力を身につけること、また各メンバーの役割や委員会に求められる責任を理解することを目的としました。
- ・9月に県・郡教育スポーツ局や教員養成校の職員などの関係者と共に教員研修の内容を計画するための会議を実施しました。
- ・11月と12月に教員を対象にした研修を実施し、61名の教員が参加しました。研修は国語(ラオス語)の授業における指導力を高めることを目的として、参加者は授業の実践事例を学び、その内容を活かした模擬授業の実践などを行いました。

所長メッセージ

ラオス事務所
所長代行
玉利 清隆



ラオスの農村部では、公用語であるラオス語を理解しない少数民族の児童が多く、授業内容の理解や教科書の読解に支障をきたすなど、学習に大きな影響が与えています。先生方も、言語の壁に加え、複式学級、新カリキュラムへの対応など、幾重もの困難に直面しています。このような状況の中、2025年は前年に開始した少数民族児童の指導・学習環境改善事業を継続して実施しました。これまでシャンティが長年培ってきた読書推進活動と教員研修、さらに地域住民との協力を組み合わせ、児童のラオス語学習を包括的に支えています。また、依然としてニーズが高い学校建設の調査や今後の活動の方向性に関する協議も実施しました。厳しい状況におかれていた農村部の子どもたちが、教育を通して将来の選択肢を広げより良い生活を送れるよう、これからも農村部での教育活動を推進してまいります。

Afghanistan

アフガニスタン

子どもたちの希望の灯を育む図書館活動の継続

2021年8月の政変から4年経った現在も、中学生以上の

女子の教育は未だ再開されていません。

長期化する国際社会からの孤立と支援縮小により、

教育現場で必要とされる支援は不足しています。

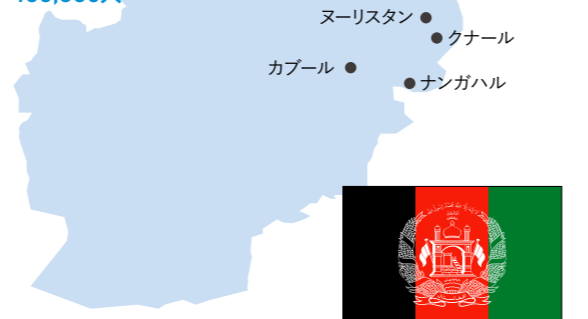
図書館を通じた活動を通して、教育の損失を少しでもくい止め、

これからも、日々の暮らしの中で子どもたちが安心して集い、学び、

夢や希望を育むことのできる空間を届けていきます。

実績

図書館活動参加者：
165,660人



事業

1. 図書館活動を通じた

地域の学びの場の拡充と改善事業

- 1つの地区公共図書館(第9地区)の建設準備と2つの地区公共図書館(第7および11地区)の基盤整備の準備にかかる活動を行いました。また、ジャララバード市の情報文化局(DolC)管轄の子ども図書館1館とカブール市の公共図書館2館(第5および12地区)の運営支援を行いました。
- カブール市の2館では、1年間で合計延べ58,929人の児童・生徒が利用し、貸出図書数は53,059冊でした。ジャララバード市の子ども図書館は1年間で41,872人の生徒が利用し、貸出図書数は10,146冊でした。
- 日々の図書館活動の実施に併せて、イベントや移動図書館の活動なども実施しました。
- 2024年から引き続き取り組んでいたクナール県での仮設教室建設が完了し、竣工式を開催しました。

2. 子ども図書館の運営

- シャンティが運営する子ども図書館は251日間の開館中、51,768人(うち11.9%は国内避難民や孤児、障がい児など)の子どもが利用しました。
- 読書推進のためのイベントを7回開催し、参加者は1,061人でした。政変以降、女子や国内避難民を中心とした不学児の利用が増えています。

3. ヌーリスタン県における図書館推進事業

- 2024年から引き続き、ニューリスタン県における図書館活動普及のために試験的に新しい地域で公共図書館3館の整備を行うとともに、子どもたち向けのスペースを新設しました。

所長メッセージ

事務局長 兼
アフガニスタン事務所 所長
山本 英里



2025年8月、アフガニスタンは1998年以来最も多くの犠牲者を出した大地震に見舞われました。特に被害が大きかったナングハル県、クナール県はシャンティが長年活動を実施してきた地域でもありました。支援ニーズが高まる中、暫定政権によるインターネットの遮断など、不安定な政情は続き、女性へも昨年に増して厳しい制限が課せられています。隣国からの難民の帰還も続いており、定住先がないまま生活を強いられている人々もいます。国境では、保護者不在の子どもたちも多くみられており、今後の子どもたちの行く末が懸念されています。

シャンティでは、食料支援などの緊急人道支援に加え、図書館活動を通して子どもたちの学びの場や安心できる場所づくりを行っています。最近では、成長した子どもが今度は育成の立場で戻ってきてくれています。厳しい状況は続きますが、新たに労働福祉省との連携も強化しながら、子どもたちの支援活動を継続していきます。

Myanmar

ミャンマー

子どもたちの未来を育む教育支援活動を継続

2021年2月の政変から4年が経過し政治、経済、教育など

すべての分野において深刻な状況が続く中、教育においては

戦闘などによる影響から学びへのアクセスが困難な状況が続いています。

また経済的な理由から学びを続ける場もさらに失われてきています。

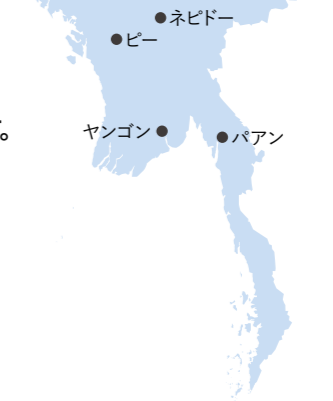
こうした中で移動図書館活動や絵本・紙芝居出版事業などを通じて、

厳しい環境下にいる子どもたちにも

継続した学びの場所と機会を届けています。

実績

図書館活動参加者：
1,894人
研修会参加者：
26人



事業

1. 移動図書館

西バゴー地域の僧院および尼僧学校9校にて移動図書館活動を実施しました。計17回実施し、1,894人の子どもたちが参加しました。6ヶ月の期間で各学校を2回巡回、プログラムの主な内容は絵本や紙芝居・パネルシアターなどによる読み聞かせ活動と読書タイムでした。読書タイムでは対象校の教員が子どもたちが絵本を楽しめるように主体的に読み聞かせを行う姿なども見られました。技能をより高めてもらうため終了後に教員向けに必要な指導を行いました。移動図書館活動は子どもたちに楽しい読書体験を提供すると同時に教員の図書館活動理解の促進につながりました。

2. 絵本・紙芝居出版

児童図書出版委員会と連携し、絵本2タイトル、紙芝居2タイトルを出版しました。同委員会との協議の結果、想像力、伝統・文化、勇気、冒険を2025年のテーマとして作業を開始しました。委員会がドラフトを作成し、日本の絵本・紙芝居の

専門家によるアドバイスを受けて修正・改善を行い、2025年12月に絵本2,600冊(1タイトルにつき1,330冊)と紙芝居350部(1タイトルにつき175部)が印刷されました。配布については2026年1月に西バゴー地域、カレン州およびヤンゴン地域の対象小学校92校の学校図書館に行います。

3. 学校図書館普及のための基盤整備

ネビドーの小中一貫学校2校の教員向けに図書館研修を実施し、計26名が参加しました。研修後評価では参加者の90%以上が研修内容を理解し、学校図書館に関する内容や運営について学べたと回答しました。



ミャンマー事務所職員

所長メッセージ

ミャンマー事務所
所長
中原 亜紀



政変から4年を迎えるミャンマーは大きな震災の影響も加わり、国内状況は悪化を続け、人々の心は一層疲弊していきました。さらには戦争を知らない子どもたちが戦禍に追われるようになり、子どもたちの心が落ち着き、学び続けることができる居場所の維持がより必要となりました。

こうした中、ミャンマー事務所では移動図書館や絵本・紙芝居出版活動に取り組み、また人道支援として図書館や学習環境改善のための活動を実施しました。読み聞かせや絵本に触れる機会を提供することで、子どもたちに楽しい空間を作り上げることの重要性を再確認しました。しかし地域によっては活動を実施することの難しさもあります。その時々状況に合わせた柔軟な支援体制が今のミャンマーには求められており、2026年もこうした取り組みを実施していきたいと思っています。

Myanmar (Burma)

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

人々の心の安らぎの場として図書館を継続

2025年、難民キャンプは大幅な国際支援の削減により、厳しい状況におかれました。医療や食料配給などの基本的なサービスは一部を残して停止し、第三国定住プログラムも白紙になりました。急遽難民がキャンプ外で最大1年間就労することがタイ政府から認められ手続きが開始されましたが、就労できる人は限られ、影響もまだ不確定です。将来への不安が増す中、シャンティは心の安らぎの場となる図書館の運営を継続しました。

実績

図書館活動参加者：
235,069人
研修会参加者：
145人
絵本・紙芝居出版：
1タイトル(2言語)
2,000冊



事業

1. コミュニティ図書館運営

- タイ国内の難民キャンプにおいて、コミュニティ図書館の運営を支援し、年間利用者数は7キャンプ15館全体で235,069人(子ども156,875人、大人78,194人)でした。2024年よりも利用者が増加しました。
- 図書館15館に、大人用書籍6,810冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本5,455冊(カレン語、ビルマ語)、参考書2,055冊を配架しました。大人用ビルマ語書籍の値上がりにより配布冊数が減少しました。
- 絵本1タイトル2,000冊(カレン語、ビルマ語)を出版し、図書館に配架しました。
- キャンプ内の学校やキャンプ内で活動する団体、合計97組織へ移動図書館を使って本を貸し出し、合計527回利用されました。
- 7キャンプで、図書館員や図書館青年ボランティアに対して、読み聞かせ方法やお遊戯の手法を学ぶ研修を開催し、145人(男:42人、女:103人)が参加しました。

- 老朽化した図書館の屋根や塀、扉、トイレなどの修繕を行いました。
- 7キャンプで四半期会議や年次会議を開催し、図書館委員会、教育委員会など関係者が集い、合計538人(男性:203人、女性:335人)が参加しました。主に活動計画やその内容、課題を共有し、サービスの向上に努めました。
- 活動25年目となる2025年は7年ぶりに「難民子ども文化祭」を開催し、難民キャンプ内での相互文化理解に貢献しました。



ミャンマー(ビルマ) 難民事業事務所職員

副所長メッセージ

ミャンマー(ビルマ) 難民事業事務所
副所長
ジラポーン・ラウィルン(セイラー)



過去25年にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。2025年は米国の政策変更により大幅な人道支援の縮小、食料配布の削減が続く、難民キャンプは厳しい状況におかれました。第三国定住プログラムも停止されました。しかし重要な進展もありました。国際支援の減少に伴う影響緩和策として、タイ政府がキャンプ外での最大1年の就労を初めて認めたのです。これは自立に向けた前向きな一歩ですが、書類や行政上の制約により、こうした機会を利用できる難民は限られています。不透明な状況が続く、多くの難民キャンプの人々は不安と闘い、先が見えない将来を模索しています。私たちは使命を堅持し、これまで蓄積した経験を共有して、小規模であっても子どもたちの保護や教育文化支援活動の継続に力を尽くしてまいります。

Nepal

ネパール

コミュニティ発展の核となる図書館へ

「Z世代デモ」に伴う政権崩壊と暫定政府の樹立など激動の一年となったネパール。格差や若者の失業、教育の質の低さなどの社会課題も依然として深刻です。こうした中で継続したコミュニティ図書館事業は徐々に成果を見せ、読書推進活動から識字教育、地域のニーズを踏まえた職業訓練研修まで、だれもが安心して学べる地域発展の核として成長を遂げつつあります。

実績

研修会参加者：
1,715人
図書館利用者数：
39,244人



事業

1. コミュニティ図書館能力強化事業

本事業は、コミュニティ図書館・リソースセンターを拠点に、若者や女性などの地域住民の学びの機会を創出することを目的として実施しています。事業が3年目に入り、これまでに実施した研修を通じて、参加者の収入向上や就業機会の拡大といった具体的な成果も現れています。また、若者が将来の目標を持ち、地域の社会活動に積極的に参加する姿も見られるようになりました。

具体的な活動としてはこれまで建設を進めてきた2館が本年度に完成し、両施設において本格的に研修を開始しました。研修では、電気工事、配管、家電修理など、地域のニーズに即した職業技術スキル研修を実施し、85名が参加しています。参加者は実践的な技術を習得し、就業機会の拡大や所得向上に向けて意欲的に研修に取り組んでいます。

また、女性や若者のライフスキル向上とエンパワメントを目的とした研修も実施し、304名が参加しました。本研修では、女性の権利やリー

ダーシップについて学ぶとともに、目標設定、問題解決、人間関係の構築など、日常生活や社会参加に必要なスキルの向上を図りました。

さらに、2024年に建設が完了し、すでに研修を開始していた1館目を含む計3館において、ITスキル研修も実施しました。本研修には416名が参加し、参加者のレベルに応じて、基礎的なデジタルリテラシーから実務に活用できる技能まで、段階的に学ぶ機会を提供しました。加えて農業スキル研修には579名が参加して、農業などに関するさまざまな課題解決に向けて学びを深めています。



ネパール事務所職員

所長メッセージ

ネパール事務所
所長
萩原 宏子



ネパールでは2025年、汚職反対などを掲げる若者を中心とした「Z世代デモ」が発生し、デモから1週間のうちに当時の政権が退陣し暫定政府が樹立される激動の1年となりました。

こうした中、ネパール事務所ではコミュニティ図書館・リソースセンター事業が3年目を迎え、東部コシ州のコミュニティ図書館3館にて、識字教育や若者・女性のエンパワメント、職業・技術スキル研修など、さまざまな活動を実施しました。2026年からは先住少数民族地域での基礎教育・幼児教育支援に新たに取り組む予定です。

ネパールを含む世界中で不安定な情勢が続いていますが、足元の社会課題を一つ一つ解決する地道な活動に取り組むこと、その際に民族や国籍を超えて共に協力していくことが平和な社会の礎になると信じ、これからも地域に根差した活動を継続していきます。

Japan

日本

地域での外国人支援と防災を推進

日本に在留する外国人の数は増加の一途をたどっています。

こうした中、豊島・練馬区での相談会や食料支援を通じ、生活に寄り添う活動を継続しました。行政職員や教育関係者向けに、活動から得た知見の共有にも取り組んでいます。

また、防災分野では新宿区の寺院や社会福祉協議会と連携し、防災まち歩きを実施。楽しみながら街の防災資源を確認し、災害時に支え合える地域の大切さを共に学びました。

実績

外国人支援フードパントリー・相談会

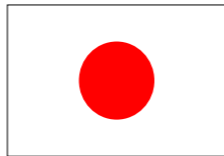
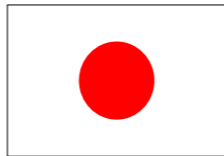
回数:14回

来場者:351人

防災減災活動

回数:1回

●東京・豊島区/
練馬区/新宿区



国内事業

1. 外国人の包括的支援事業

地域の外国人支援体制強化を目指し、フードパントリー・相談会の開催、外国人支援スタッフの育成を軸とした事業を実施しました。

・東京都豊島区では「としまる」の名称で活動し、フードパントリー・相談会を11回開催。291名が来場しました。東京都練馬区でも「ねりんく」の名称で2024年3月から同様の取り組みを開始し、今年は3回の開催で60名が来場しました。

・月1回の相談会に加え、月3回の「としまる外国人相談窓口」を実施しています。この相談窓口は、個別相談を中心に、相談機会のさらなる創出により、支援アクセスの向上を目指しています。

・安定した在留資格である特定技能を取得するためのセミナーや、公営住宅抽選の申し込みサポート会など、特に需要の高い相談に対応するイベントを開催しました。

・豊島区では行政との連携強化が進み、区役所の職員を対象に、在留資格のレクチャーや、「としまる」で扱った事例の紹介を行いました。練馬区でも、区内の教育関係者との意見交換会を行いました。

国内緊急人道支援活動

1. 防災減災事業

新宿区の寺院、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会と連携し「新宿子ども防災まちあるき」を開催しました。区内の親子や高校生が参加し、地図や写真を手に地域をめぐりました。クイズ感覚で街の防災資源を発見し、楽しみながら防災地図を完成させました。活動後は、非常食を活用した「衣笠どんぶり」を全員で調理して試食しました。体験を通じて日常の備えや、災害時に支え合える地域コミュニティの大切さを学びました。

課長メッセージ

国内事業課

課長

石塚 咲



日本に在留する外国人は、2025年6月末には約396万人となり、過去最高を更新しました。また、シャンティが活動する東京都豊島区においては、住民の10人に1人以上が外国人という状況にあります。

日本で暮らす外国にルーツを持つ方々が抱える課題は、就労、言語、住居、医療など、多岐にわたります。相談会の実施を通じ、一つの悩みだけではなく、複合的な困難を抱える方が少なくないと感じます。こうした課題の解決には、さまざまな機関との連携や、地域での支え合いが欠かせません。社会福祉協議会、弁護士、支援コーディネーターと共に支援の体制を組み、行政などと連携し活動を続けてまいります。

また、度重なる自然災害に対し、平時から顔の見える関係を築き、災害に備えることも重要です。2026年も災害支援活動に加え、他機関と連携し、地域での防災活動を実施する予定です。

緊急人道支援

災害や紛争発生直後の緊急期において、生活するために必要な生活物資を配布します。また、子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。長期の避難生活においても基本的な人権を守るため、国際基準に則った活動を行っています。

海外での活動

ミャンマー

学習センター建設

政変以降の不安定な情勢から多くの学校が閉鎖に追い込まれ、人々は子どもを僧院や教会が寄付によって運営するコミュニティ学校に通わせています。シャンティはコミュニティ学校2校に図書スペースと学習スペースの機能を兼ね備えた学習センターを建設しました。図書や本棚の配布、図書館研修・校舎維持管理研修も行い、2校ともそれぞれ6月、7月より子どもたちの学習と読書のスペースとして活用されています。



学習センター

ミャンマー大地震 被災者支援活動

2025年3月28日に発生したミャンマー地震(M7.7)は、死者3,600人、負傷者5,000人を超えるなど、同国に甚大な被害をもたらしました。この災害は、紛争、避難、不安定な経済といった背景の中で発生し、住民の脆弱性をさらに深刻化させました。上記の状況を鑑み、食料・物資支援、家屋再建支援を行いました。

シェルター設置とNFI配布

地震により、人的被害のほか、インフラも大きな被害を受けました。4万棟以上が倒壊あるいは損壊し、仮設住宅の不足が深刻化しました。そこで、被災者の方が生活を再建するまでの間暮らすことができる仮設シェルターの建設のほか、それに関連する物資配布、生活必需品配布などの支援を行いました。

震災被害を受けた学校校舎改修

地震では2,600校以上の学校校舎が損壊あるいは全壊し、子どもたちの学習に大きな影響が生じました。こうした状況下においても、子どもたちが安心して安全に学習できるように校舎の修繕を行っています。

パキスタン

パキスタン水害 被災者支援

2025年6月下旬から続いた豪雨は、パキスタン各地に鉄砲水、洪水、土砂崩れを引き起こし、ハイバル・パフトゥンハー(以下、KP州)、パンジャブなど複数の州で甚大な人的・物的被害が発生しました。食料・生活必需品の不足、水・衛生状況が悪化する中、シャンティは現地の提携団体と協力し、被災した750世帯を対象に、食料・生活必需品の配布支援を行いました。

アフガニスタン

アフガニスタン東部地震 被災者支援

2025年8月31日深夜、アフガニスタン東部を震源に発生したマグニチュード6.0の地震は、近年で最悪の被害をもたらし、死者は2,200人、負傷者は3,600人超に上りました。シャンティは発災直後から特に被害が大きかった被災地に入り、ニーズ調査およびシェルター支援を行いました。また、クナル州において、980世帯を対象に、食料と生活必需品の配布を行いました。



配布物資を受け取った子ども

カンボジア

カンボジア—タイ国境紛争 避難民支援

2025年7月と12月の2度にわたり、カンボジア北西部のタイ国境地帯で軍事衝突が発生し、最大で約64万人が避難を余儀なくされました。これを受け、シャンティは西部3州の避難所においてニーズ調査を行い、食料や衛生用品、生活必需品の配布などの緊急支援を実施しました。また、緊急下における教育支援として、避難所で移動図書館活動を行いました。



避難所での移動図書館活動

日本での活動

令和6年能登半島地震

石川県輪島市において、輪島市図書館との連携により移動図書館活動を実施しました。仮設住宅や公民館などの巡回を通して、被災された方々が本を通じて日常に戻るきっかけや、地域コミュニティを再構築するための交流の場づくりを目指しています。2025年度は計158回実施し、延べ1,158人の方に利用いただきました。



移動図書館の様子

令和7年8月豪雨(鹿児島県始良市での支援活動)

記録的な豪雨により床上浸水被害を受け、多くの蔵書が汚損した鹿児島県始良市の児童クラブに対し、子どもたちの居場所の環境回復を目的に、児童書や図鑑などの図書の補充支援を実施しました。



新しい絵本を楽しむ子ども



絵本を届ける運動

Campaign to Deliver Picture Books

日本の絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、シャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る翻訳絵本づくりは、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に開始してから2025年で26年目を迎えました。

絵本を通してアジアの国々につながる

18,109冊の翻訳絵本をアジアの子どもたちへ

「絵本を届ける運動」を通して集めた翻訳絵本は、シャンティが支援する活動地に届けられます。これまでに届けた絵本は43万冊以上にもなります。2025年度は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ国境のミャンマー(ビルマ)難民キャンプと移民学校へ、クメール語、ラオス語、ビルマ語、カレン語に翻訳した絵本を合計37タイトル・18,109冊届けることができました。

活動地に送る絵本のテーマ

届ける絵本は、現地でシャンティが取り組んでいる活動内容や子どもたちの年齢、文化的背景などを考慮し、絵本に詳しい図書館員、教員、出版社の皆さまよりアドバイスをいただきながら選書しています。子どもたちが将来の夢について考えることができる職業を紹介する絵本や、ページをめくるたびに恐竜が動く「しかけ絵本」も対象にしました。紛争の影響を受け子どもたちにかけがえのない平和について考えてほしいというリクエストを受け、「戦争」と「平和」をテーマにした絵本も選定しています。

翻訳絵本づくりワークショップの広がり

2025年度は、企業・団体、学校、図書館で計55回実施し、2,022名の方にご参加いただきました。企業では社員のボランティア活動や研修の一環として開催しました。親子で参加し、夏休みの自由研究にもしていただけるワークショップも行いました。参加いただいた方からは「アジアの国々につながる体験ができた」といった感想をいただきました。

実績

参加数 **18,109** 冊
 1,828 件
 タイトル数 **37** タイトル
 出版社数 **19** 社



絵本を手にした子どもたち

2026年の
ラインナップは
こちら ▶



CRAFT AID

クラフトエイド

[フェアトレード事業]

アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手づくりした商品を販売するシャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を大事にしたものづくりを行い、日本の皆さまにご紹介しています。

つくり手たちの想いをのせて

クラフトエイドの見直し

2025年度は、クラフトエイドの業務縮小に伴い、これまで取り扱ってきた商品の中から厳選された商品に絞り、販売をしました。新たに、ネパールの商品が加わり、人気商品の一つである「ゾウのしあわせマスコット」が生まれ変わりました。世界各地で生じる災害や紛争による物価の高騰の影響は大きく、生産者団体も物資調達に困難になっているという声も聞かれました。それでも、各国の伝統文化を大事に、良い商品をお届けできるよう連携を密にして継続していきます。

つくり手を身近に感じる活動

2025年は、アフガニスタンの生産者団体シルクロード・パーミヤン・ハンディクラフトの代表の安井浩美さんをお招きし、アフガニスタンの現状や製作秘話、つくり手の女性がどのように製作しているかをより理解するための販売会を開催しました。さらに、3〜7世紀ころに建立された大仏の壁画をモチーフとした作品の説明では、壮大な歴史を感じるひと時となりました。

個人通販では389件、店舗卸売(1月〜6月)では16件の注文をいただきました。また、25カ所の会場でクラフトエイドの商品を販売し、学校や企業の皆さまのご協力のもと、12回の委託販売を実施しました。これからもつくり手と商品を購入されたお客様の両方の架け橋として、引き続きクラフトエイドの活動を広めていきます。

実績

取扱 **16** 店
 期間限定販売 **25** 回
 ご支援数 **445** 件



新しくなった「ゾウのしあわせマスコット」



アフガニスタン商品の販売会

つくり手たちの
手仕事を
ご覧ください ▶



アジアの図書館サポーター

[継続的なご寄付による支援]

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にご支援いただくプログラムです。皆さまのご支援が子どもたちの生きる力を育みます。

つながりが広がる20年

2005年にプログラムをスタートしてから、20年を迎えました。サポーターの輪は着実に広がり、2025年末で2,428名の方にご参加いただいています。

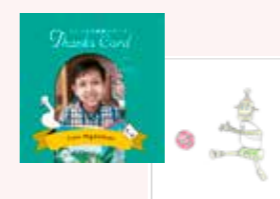
この20年の節目にサポータープログラムのおみやみやサポーターの方からのメッセージを冊子にまとめました。冊子の中では、これまでお届けしてきた子どもたちのメッセージカードのデザインもご紹介しています。「サンクスカードにみられる子どもたちからの喜びに充ちた文章と素敵な笑顔に励まされています」「つながっている気持ちを味わうことができます」「毎年届く子どもたちの写真とメッセージはうれしいプレゼントです」など、あたたかいお言葉をいただきました。2025年のカードは10年以上にわたりイラストやデザインでご協力いただいているデザイナーのaurinco(アウリンコ)さんと共に制作しました。これまでで最も多い6地域の子どもたちからメッセージと写真を受け取り、活動の広がりを感じています。

活動地を限定しないアジアの図書館サポーターの皆さまからの継続的なご支援が、私たちの活動を支え、厳しい環境でも学び続けようとする子どもたちを支えています。

実績

新規サポーター **250** 名

ご寄付に関する情報は
こちら ▶



写真付メッセージカード

メディア掲載 |

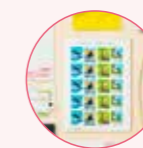
能登半島地震における移動図書館活動を中心に新聞、雑誌など161媒体で掲載されました。内訳は、新聞124、雑誌24、そのほか広報誌など13媒体です。八木澤克昌氏ご逝去、能登半島地震における移動図書館活動などに関し、現地の様子や活動の状況を取材いただきました。

掲載先(一部): 読売新聞/朝日新聞/毎日新聞/東京新聞/産経新聞/中外日報/仏教タイムス/文化時報 など

イベント開催 |

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所 活動25年イベント

イベントを7回開催し、約464人に参加いただきました。昨年は八木澤克昌氏ご逝去にともない、「お別れ会」と「偲ぶ会」を開催し、多くの方にご参加いただきました。ミャンマー(ビルマ)難民事



もので寄付するプロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

学びの機会をつくるお品物

2025年は、ご参加いただいた方から送っていただいたお品物により570万円以上の募金になりました。企業との連携により一部書店に古本の回収ボックスを設置しています。本年は新規でご参加くださった方が多く見られました。また、会報誌『Shanti』の読者アンケートにご協力いただいた方々から書き損じはがきや切手のご寄付をいただきました。募金はアジアの子どもたちへ学びの機会をつくる活動に大切に使用しています。

実績

本・CD・ゲームソフト **1,036** 件
 商品券・金券、書き損じはがき、それ以外の家に眠るお宝 **408** 件
 合計 **1,444** 件
 総額 **5,702,607** 円

回収品の例

- 本・CD・ゲームソフト
 - 書籍
 - CD
 - DVD/Blu-ray
 - ゲームソフト、ゲーム機
- 商品券・金券
 - 全国共通商品券
 - ビール券/お米券
 - 図書券/図書カード
 - 書き損じはがき
 - 未使用の切手/はがき
- それ以外の家に眠るお宝
 - 金・プラチナ・貴金属・宝石
 - ブランド品(バッグ・食器・時計)
 - 古銭・古紙幣/金貨・貨幣
 - カメラ・レンズ
 - 楽器(ギター、管楽器) など



回収品の例



箱詰め

実績

メディア掲載 **161** 媒体
 イベント開催 **7** 回 / **464** 人

講演

97 回 / **5,827** 人

シャンティの活動は、YouTubeでも発信しています。こちらからご覧ください ▶



ご支援・ご協力・連携実績

2025年も、個人、団体からのご寄付に加えて、教育環境改善のための連携事業を実施しました。さまざまなご支援・ご協力を通して多くのみなさまに活動を支えていただいています。

ご支援・ご協力 (掲載数字：2025年1月～12月)

アジアの図書館サポーター (ATS)

新規申込	250人
合計	2,428人 *2025年12月末時点

寄付

個人からの寄付	6,124人 / 145,075,273円
団体からの寄付	1,315団体 / 244,310,039円

事務所ボランティア

絵本を届ける運動	18人
クラフトエイド	7人

インターンシップ

広報・リレーションズ課	計3人 (内、東洋大学国際学部より1人、 鶴見大学文学部より1人)
事業サポート課	1人 (NGO海外研修プログラム)

プロボノ・協力者

- aurinco(アウリンコ)さん
- 岩崎 将之さん
- きよはら えみこさん
- 江藤 孝治さん
- 高橋 明日香さん
- 高橋 彩さん
- 三上 悠里さん
- 川畑 嘉文さん
- 保田 卓也さん
- 和田 元さん

事業連携

外務省「日本NGO連携無償資金協力」

- ネパール**
 - ・コミュニティに根差した職業・技術スキル開発を通じた若者・女性の就労支援事業
- アフガニスタン**
 - ・図書館活動を通じた地域の学びの場の拡充と改善事業
- タイ**
 - ・タイ王国ターク県の移民学校に通う子どもたちの教育改善事業
- カンボジア**
 - ・オッドーミンチェイ州の公立幼稚園における幼児教育のアクセスと質の改善事業
 - ・ブレアピビア州の公立幼稚園における幼児教育のアクセスと質の改善事業
- ポーランド**
 - ・カミエナ・ゴーラ郡における社会統合促進事業

国際協力機構 (JICA)

- ラオス**
 - ・初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業 (草の根技術協力事業 草の根パートナー型)
- アフガニスタン**
 - ・ヌーリスターン県における図書館推進事業

ジャパン・プラットフォーム (JPF)

- アフガニスタン**
 - ・クナル県における食糧・生活必需品の配布事業
- パキスタン**
 - ・ハイバル・パフトゥンハー州における食糧・生活必需品の配布事業
- カンボジア**
 - ・カンボジア西部3州の国内避難民支援にかかる緊急初動調査・緊急支援

自治体

- 日本 石川県 輪島市**
 - ・移動図書館事業 (令和6年能登半島地震支援)

日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) 休眠預金活用事業

- 日本 東京都 豊島区、練馬区**
 - ・日本国際交流センター (JCIE)、ジャパン・プラットフォーム (JPF)「アウトリーチ手法による外国ルーツ住民の自立支援事業」
 - ・地域支援のエンパワメントによる外国ルーツ住民への自立支援体制構築事業

後援

- 「絵本を届ける運動」「アジアの図書館サポーター」
- ・文部科学省
- ・公益社団法人 日本図書館協会
- ・公益社団法人 読書推進運動協議会

シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動を続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

シャンティの理念

共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和 (シャンティ) な社会を目指します。

目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。そのためには「1. 学ぶための本や教材」、「2. 学びを届ける人」、「3. 安心して学べる場所」、そして「4. 学びと出会うための活動」が欠かせません。



2030年までの達成を目指す

「持続可能な開発目標 (SDGs)」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標



組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

顧問

阿部 豊淳	宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長
神津 佳予子	株式会社KOZUstyle 代表取締役
白石 孝	荒川区職員労働組合 顧問 特定非営利活動法人日本ラオス子どもの未来 理事長
笹岡 賢司	静岡県・慶福寺 住職
三部 義道	もがみ地産地消エネルギー代表 山形県・松林寺 住職
早坂 文明	宮城県・徳本寺 住職

参与

服部 秀世	曹洞宗 宗務総長
小林 昌道	大本山永平寺 監院
渡辺 啓司	大本山總持寺 監院

理事・監事

会長	若林 恭英	里山教育機構株式会社 代表取締役社長 長野県・安楽寺東堂
副会長	茅野 俊幸	公益財団法人庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職
副会長	秦 辰也	ドゥアン・プラティープ財団 上席顧問 シーカー・アジア財団 副理事長
専務理事	岡本 和幸	上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職
常務理事	松永 寛道	静岡県・宗徳院 住職
常務理事	横山 俊顕	曹洞宗総合研究センター 講師、福島県・安洞院 住職
理事	浅野 幸子	早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
理事	有馬 嗣朗	あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職
理事	伊藤 弘泰	アースレーベル合同会社 代表 株式会社AI Network Solution 代表取締役 学校法人英数学館 参与 岡山大学 非常勤講師
理事	佐藤 真美	一般社団法人Earth Company 日本事務局長
理事	シュルツ 八坂 由美	国際協力機構 専門家
理事	関根 隆紀	埼玉県・光秀寺 住職
理事	東海 泰典	シャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職 宮城県保護司会連合会 事務局長
理事	直井 里予	国際ファッション専門職大学 専任講師 京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師
理事	村山 博雅	世界仏教徒青年連盟会長、大阪府・洞雲寺 住職
理事	山本 英里	シャンティ国際ボランティア会 事務局長
監事	中山 雅之	国士館大学大学院グローバルアジア研究科 教授
監事	野中 茂	公認会計士（野中公認会計士事務所）

専門アドバイザー

天野 教之	天野医院 院長
大菅 俊幸	曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子	かまくらさちこ株式会社 代表取締役
高田 博嗣	NHKグローバルメディアサービス ニュース制作センター 統括部長
手束 耕治	カンボジア宗教省仏教研究所 顧問
藤谷 健	国際基督教大学客員教授、朝日新聞with Planet シニアエディター
三宅 隆史	立教大学文学部 特任教授

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年)
ソロブチミスト日本財団賞(1985年)
外務大臣賞(1988年)
毎日国際交流賞(1994年)
東京都豊島区感謝状(1995年)
防災担当大臣賞(2004年)
兵庫県知事感謝状(2005年)
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)
宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
スポーツ庁長官感謝状(2019年)
第14回かめのり賞 特別賞(2020年)
第28回読売国際協力賞(2021年)
第25回地球倫理推進賞(2021年)
文部科学大臣賞(2021年)
オッケンデン国際賞(難民・避難民のための事業部門)(2023年)

参加ネットワーク一覧

・国内
NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)[世話人・安全基準管理委員]／NGO外務省定期協議会／
NGO-JICA協議会／NGO非戦ネット／NGO-労働組合国際協働フォーラム／
SDGs市民社会ネットワーク／アフガニスタン避難者受け入れコンソーシアム／
開発教育協会(DEAR)[理事]／紙芝居文化推進協議会／
教育協力NGOネットワーク(JNNE)[事務局長]／国際協力NGOセンター(JANIC)／
市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCIS)／
ジャパン・プラットフォーム(JPF)[幹事団体]／地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)／
震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)／世界宗教者平和会議(WCRP)／
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)／多文化としまネットワーク／
東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)[副代表]／
日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)／日本NPOセンター／日本図書館協会／
日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)／庭野平和財団[理事]／
仏教NGOネットワーク(BNN)[副理事長、事務局長]／防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)

海外

カンボジア
Cooperation Committee for Cambodia(CCC)／
Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)／
NGO Education Partnership(NEP)

ラオス
International NGO Network(INN)／
Japanese NGO Meeting(JANM)

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand
(CCSDPT: 難民支援事業調整委員会)

アフガニスタン
Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)

ミャンマー
INGO Forum／
Japan NGOs Network - Myanmar (JNN-Myanmar)

ネパール
Association of International NGOs in Nepal (AIN)

全体
Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)[理事]／
Global Book Alliance／
The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRRN)

組織図

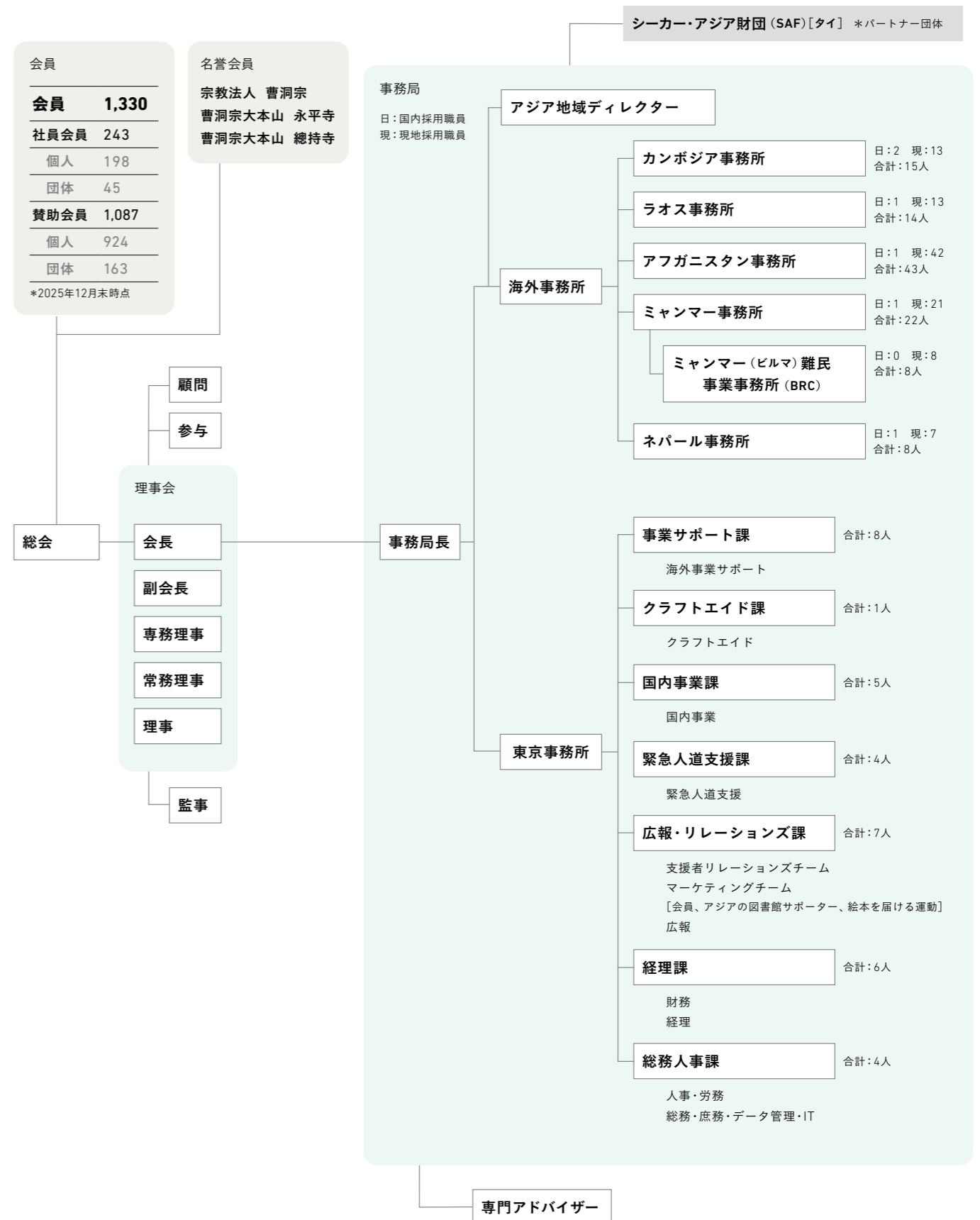
事務局員 145人

(SAF、インターン含まず)

国内採用職員 41人

現地採用職員 104人

*2026年4月1日時点



貸借対照表 2025年12月31日現在

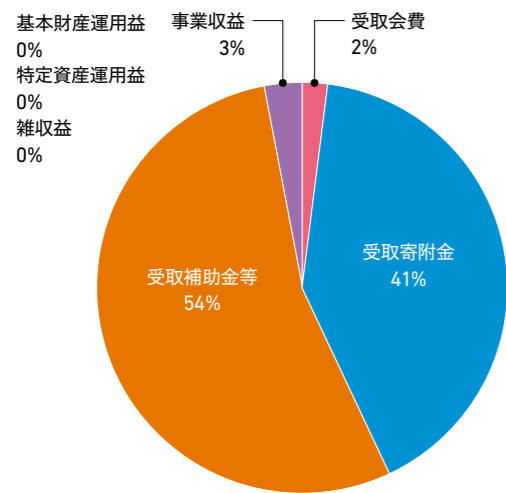
資産の部 (単位:円)	
1. 流動資産 (現預金等)	123,558,950
2. 固定資産	
(1) 基本財産	50,000,000
(2) 特定資産 (特定預金等)	766,703,138
(3) その他固定資産 (固定資産物品等)	59,425,266
固定資産合計	876,128,404
資産合計	999,687,354

負債の部	
1. 流動負債 (預り金等)	27,844,704
2. 固定負債 (退給引当金等)	106,196,119
負債合計	134,040,823

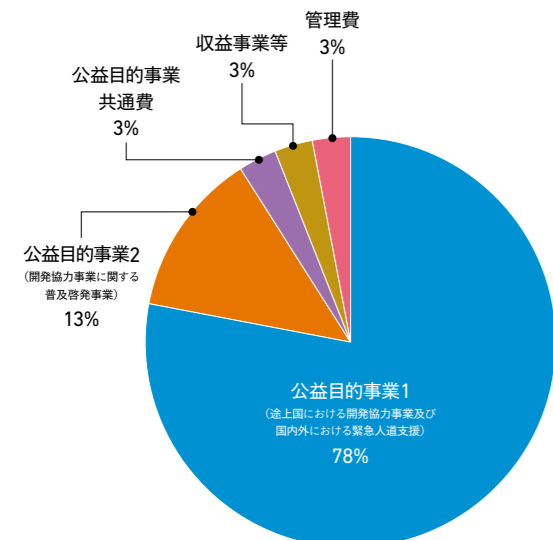
正味財産の部	
1. 指定正味財産	751,723,970
2. 一般正味財産	113,922,561
正味財産合計	865,646,531

負債及び正味財産合計	
	999,687,354

収益



費用



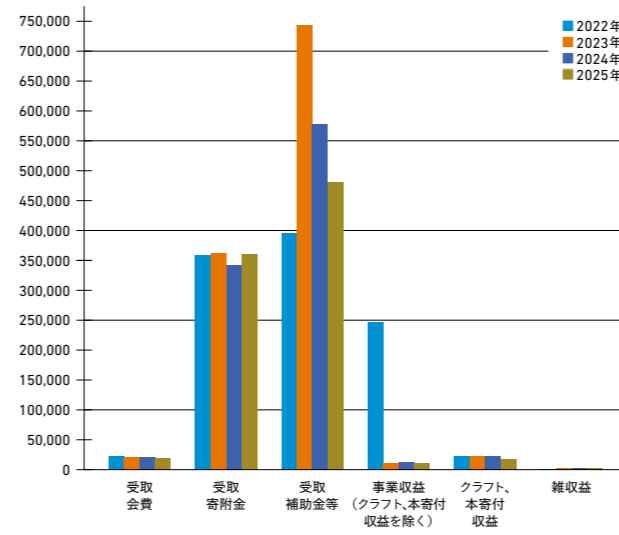
正味財産増減計算書 2025年1月1日から2025年12月31日まで

一般正味財産の部 (単位:円)	
経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	995,743
受取会費	19,163,000
受取寄附金	360,260,298
受取補助金等	481,553,938
事業収益 (クラフトを含む)	28,236,276
雑収益	1,589,899
経常収益計	891,896,654
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急人道支援事業)	
タイ事業費	8,301,967
カンボジア事業費	126,030,080
ラオス事業費	38,021,926
アフガニスタン事業費	139,320,030
ミャンマー事業費	173,286,235
ネパール事業費	70,478,444
国内緊急人道支援	37,867,481
海外緊急人道支援	50,239,011
公益目的事業1 共通費	63,068,107
公益目的事業1 合計	706,613,281
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	40,076,606
広報事業費	54,562,681
国内事業費	26,224,021
公益目的事業2 合計	120,863,308
公益目的事業共通費	25,234,379
公益目的事業合計	852,710,968
収益事業等	
クラフトエイド事業費	18,483,837
本で寄付するプロジェクト事業費	7,339,275
収益事業等合計	25,823,112
管理費合計	30,943,938
経常費用計	909,478,018
当期経常増減額	△ 17,581,364
経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用計	46,216
当期経常外増減額	△ 46,216
税引前当期一般正味財産増減額	△ 17,627,580
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	△ 17,697,580
一般正味財産期首残高	131,620,141
一般正味財産期末残高	113,922,561
指定正味財産増減の部 (単位:円)	
受取補助金等	224,688,328
N連事業資金	337,851,004
受取寄附金	164,656,390
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	995,743
一般正味財産への振替額	△ 575,195,130
補助金返還金	△ 6,215,892
当期指定正味財産増減額	146,877,943
指定正味財産期首残高	604,846,027
指定正味財産期末残高	751,723,970
正味財産期末残高	865,646,531

年度別収益推移表 (一般正味財産)

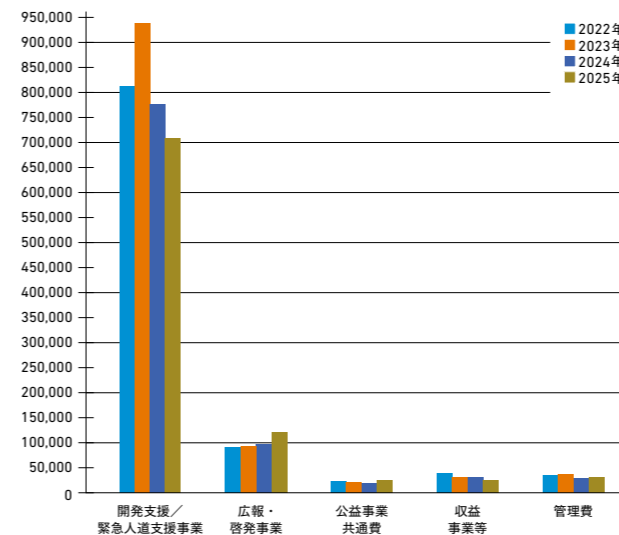
収益	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
受取会費	21,909	21,052	20,423	19,163
受取寄附金	358,062	362,585	341,584	360,260
受取補助金等	395,915	743,502	570,099	481,554
事業収益 (クラフト、本寄付収益を除く)	223,438	11,623	12,551	11,034
クラフト、本寄付収益	23,217	22,221	22,349	17,202
雑収益	1,157	2,988	2,582	2,683
合計	1,023,697	1,163,971	969,587	891,897

*雑収益には基本財産・特定資産運用益を含む。| *2022年までは外務省NGO連携無償を「事業収益」に含めていたが、2023年以降は「受け取り補助金等」に移動。



年度別費用推移表

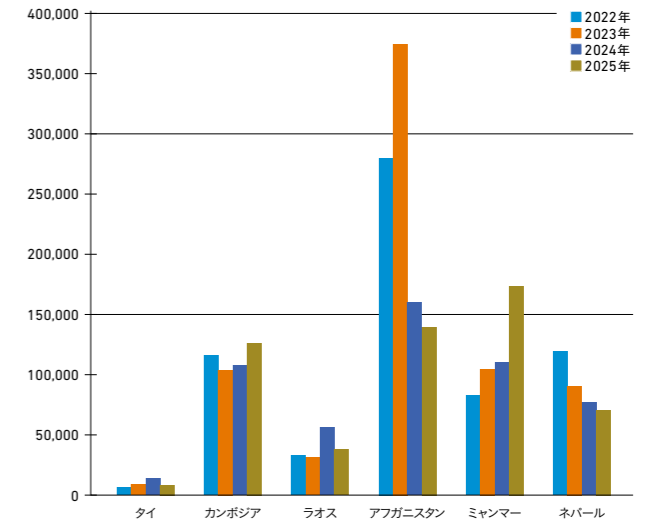
費用	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
開発支援/緊急人道支援事業	809,802	935,860	775,317	706,613
広報・啓発事業	91,464	93,034	97,045	120,863
公益事業共通費	23,662	21,023	19,603	25,234
収益事業等	37,935	31,701	31,218	25,823
管理費	35,449	36,152	29,564	30,944



年度別支援事業費推移表

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
タイ	6,615	8,638	13,621	8,302
カンボジア	115,549	103,752	107,099	126,030
ラオス	32,907	31,162	55,905	38,022
アフガニスタン	279,229	373,745	159,321	139,320
ミャンマー	82,442	104,447	109,862	173,286
ネパール	119,108	90,364	76,436	70,478

*ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ支援事業は2022年よりミャンマー事業内で行うこととなった



独立監査人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2026年2月20日

田中義幸公認会計士事務所
東京都新宿区
公認会計士

田中義幸

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

2025年度年次報告書
 発行日：2026年5月1日
 発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 デザイン：保田卓也
 写真：川畑嘉文

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
 TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
 URL <https://sva.or.jp/> Email info@sva.or.jp



詳しくはこちら <https://sva.or.jp/>
 シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。
 詳しくは弊会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

10を超える民族が暮らす、タイ国境のミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ。「難民子ども文化祭」では、さまざまな民族衣装に身を包んだ子どもたちが踊りを披露しました。未婚女性が着る白い貫頭衣のドレスをまとったカレン族、細い布を重ねて模様を生み出す技法で仕立てられたラフ族の衣装、男女ともに厚手のターバンを巻き、藍色で統一されたトップスとスカートを着用するバオ族など、色鮮やかな衣装を通して、それぞれの民族の文化が伝わってきます。



本文写真中の絵本 『おおきなかぶ』再話：A・トルストイ、訳：内田 莉沙子、画：佐藤 忠良、出版社：福音館書店 | 『へんしんトンネル』作・絵：あきやまただし、出版社：金の星社 | 『おとうさんのちず』作・絵：ユリ・シュルヴィッツ、訳：さくま ゆんこ、出版社：あすなろ書房